

Bibliographie des études québécoises au Japon



日本ケベック学会 10 周年記念企画

ケベック研究関連書誌

この書誌は、主として 2008 年の日本ケベック学会設立以来、本学会員によって発表されたケベック研究関連文献をまとめたものです。調査にご協力くださった方々に感謝いたします。

この書誌情報が活用され、新たな研究が生まれることを願っています。

AJÉQ10 周年委員会

2018 年 10 月 4 日現在

◆ ケベック全体

西川葉澄 (2006-2007) 「モンREALは晴天なり」『ふらんす』(白水社) 2006 年 4 月号～2007 年 3 月号まで連載。

小松祐子 (2009) 「今知りたいケベック『ケベックを知るための 54 章』」(書評)『ケベック研究』1 号、101-104 頁。

西川葉澄 (2009) 「『ケベックを知るための 54 章』」(書評) *Cahier*, 4 号、日本フランス語フランス文学会、31-32 頁。

小畑精和／竹中豊 (2009) 『ケベックを知るための 54 章』(共編著) 明石書店。

小畑精和 (2009) 日本カナダ学会編『はじめて出会うカナダ』(共編著) 有斐閣。

小畑精和 (2009) 「日本ケベック学会の設立」『ケベック研究』1 号、3-5 頁。

Obata, Yoshikazu (2009) « Fondation de l'Association japonaise des études québécoises », *Revue japonaise des Études québécoises*, n° 1, pp.6-8.

竹中豊 (2009) 「<地域研究>の視点から」(設立記念シンポジウム：ケベックのおもしろさ—4 つの視点から—)『ケベック研究』1 号、16-21 頁。

竹中豊 (2010) 「ケベックにおける”拓かれたライセンス”」『ケベック研究』2 号、65-73 頁。

小畑精和 (2013) 『カナダ文化万華鏡—『赤毛のアン』からシルク・ドゥ・ソレイユへ』明治大学出版会。

小畑精和 (2013) 日本ケベック学会日ケ交流 40 周年記念事業編集委員会『遠くて近いケベック』(共編著)、御茶ノ水書房。

小倉和子 (2013) 「小畑精和著『カナダ文化万華鏡』」(書評)『ふらんす』8 月号、73 頁。

佐々木菜緒 (2013) 「未来を語る—ケベック文学から知るケベックの活力」日本ケベック学会日ケ交流 40 周年記念事業編集委員会『遠くて近いケベック』御茶の水書房、277-278 頁。

丹羽卓 (2014) 「竹中豊著『ケベックとカナダ』彩流社、2014 年」(書評)『ケベック研究』6 号、140-145 頁。

Tachibana, Hidehiro (2014) « Le Québec et sa créativité : entre le national et le transnational », *Revue japonaise des Etudes québécoises*, n° 6, pp. 68-72.

立花英裕 (2014) 「小畑精和著『カナダ文化万華鏡——『赤毛のアン』からシルク・ド・ソレイユへ』明治大学出版会、2013年」(書評)『ケベック研究』6号、135-139頁。

竹中豊 (2014) 『ケベックとカナダ——地域研究の愉しみ——』彩流社。

伊達聖伸 (2015) 「ケベックの文化的アイデンティティと多文化共生の試み」上智大学アメリカ・カナダ研究所編『北米研究入門』上智大学出版、119-142頁。

伊達聖伸 (2015) 「サバイバルの地ケベック——間文化主義という挑戦」『ふらんす』10月号、14-15頁。

真田桂子 (2015) 「ケベック、北米に薫るフランス文化——交錯する言語ナショナリズムとコスモポリタニズム」『季刊民族学』152号、千里文化財団(国立民族学博物館協力)、46-56頁。

伊達聖伸 (2016) フェルナン・デュモン『記憶の未来』(翻訳)白水社。

小倉和子 (2016) 「趣旨と総括」(シンポジウム: 間文化主義再考)『ケベック研究』8号、97-100頁。

大石太郎 (2017) 「Léger, J.-M., Nantel, J., et Duhamel, P., *Le code Québec : Les sept différences qui font de nous un peuple unique au monde*, Les Éditions de l'homme, 2016」(書評)『ケベック研究』9号、139-142頁。

大石太郎 (2018) 「ケベック——英語の大海に浮かぶフランス語の「島」——」矢ヶ崎典隆/菊地俊夫/丸山浩明編『ローカリゼーション——地域へのこだわり——』朝倉書店、1-11頁。

◆ 地理・歴史

小畑精和 (2008) 「ジャック・カルティエの『航海記』」、「シャンプランのケベック建設」、「百人会会社による植民活動」、「フランス国王直轄地への転換」日本カナダ学会編『新版 史料が語るカナダ 1535-2007』有斐閣、4-9頁、12-13頁。

大石太郎 (2008) 「カナダの英語圏都市におけるフランス語系住民の社会的特性——ノヴァスコシア州ハリファクスの事例——」『琉球大学法文学部人間科学科紀要 人間科学』21号、165-182頁。

大石太郎 (2009) 「大西洋カナダ」日本カナダ学会編『はじめて出会うカナダ』有斐閣、218-227頁。

大石太郎 (2011) 「ケベック——カナダのなかの独自の社会——」『新地理』59巻3号、18-24頁。

大石太郎 (2013) 「カナダの大都市圏におけるフランス語話者人口の分析——1971年と2011年との比較——」『国際学研究』(関西学院大学) 21-31頁。

大石太郎 (2013) 「ケベック州」菅野峰明/久武哲也/正井泰夫編『世界地名大事典 第7巻 北アメリカI』朝倉書店、537-539頁。(ほかに、ケベック州の地名14項目の執筆担当)

大石太郎 (2013) 「モンリオール」菅野峰明/久武哲也/正井泰夫編『世界地名大事典 第8巻 北アメリカII』朝倉書店、1652-1654頁。(ほかに、ケベック州の地名6項目の執筆担当)

小松祐子 (2015) 「マルセル・マルテル著 「ケベックとフランコフォン少数派共同体との奇妙な関係——歴史的観点から——」(翻訳)『ケベック研究』7号、3-15頁。

小林順子 (2016) 「すぐれた伝統を受け継いだカリタス女子短期大学」『カリタス女子短期大学の50年を振り返って』(50周年記念誌) 32-36頁。

- 大石太郎 (2016) 「ブランサブロン紀行」『日本ケベック学会ニュースレター』7巻3号、8-10頁。
- 立花英裕 (2016) 「リオネル・グラーと両大戦間のフランス系カナダ・ナショナリズム」『ケベック研究』8号、26-43頁。
- 羽生敦子 (2017) 「ケベック州モンリオールの観光資源についての一考察」『第32回日本観光研究学会全国大会学術論文集』、357-369頁。
- 小松祐子 (2017) 「ケベックとカナダ他州フランコフォン共同体との関係」『ケベック研究』9号、46-58頁。
- 大石太郎 (2017) 「カナダの地勢—歴史の舞台—」細川道久編著『カナダの歴史を知るための50章』明石書店、20-25頁。
- 大石太郎 (2017) 「フランス系移民—400年を超える歴史—」細川道久編著『カナダの歴史を知るための50章』明石書店、248-253頁。
- 大石太郎 (2017) 「イザベラ・バード著 (高畑美代子・長尾史郎訳) 『イザベラ・バード カナダ・アメリカ紀行』中央公論事業出版、2014年」(書評)『カナダ研究年報』第37号、37-40頁。
- 大石太郎 (2018) 「メイン州北部におけるフランス系住民のアイデンティティとアカディアン・フェスティバル」矢ヶ崎典隆編『移民社会アメリカの記憶と継承—移民博物館で読み解く世界の博物館アメリカ—』学文社、40-64頁。
- 大石太郎 (2018) 「カナダ・沿海諸州におけるアカディアンの文化と観光の発展」菊地俊夫編『ツーリズムの地理学—観光から考える地域の魅力—』二宮書店、72-83頁。

◆ 政治・経済・宗教・社会

- 竹中豊／丹羽卓 (2007) ジェラルド・ブシャール『ケベックの生成と「新世界」』(監修) (立花英裕／丹羽卓／古地順一郎他訳) 彩流社。
- Bouchard, Gérard / Taylor, Charles (2008) *Fonder l'avenir : Le temps de la conciliation*, Rapport de la Commission de consultation sur les pratiques d'accommodement reliées aux différences culturelles, Gouvernement du Québec, 310 pages (voir aussi traduction anglaise au VII-H-7).
- Bouchard, Gérard / Taylor, Charles (2008) *Fonder l'avenir : Le temps de la conciliation*, Rapport abrégé de la Commission de consultation sur les pratiques d'accommodement reliées aux différences culturelles, Gouvernement du Québec, 101 pages (voir aussi traduction anglaise au VII-H-8, traduction espagnole au VII-H-10, traduction basque au VII-H-11 et traduction japonaise au VII-H-12).
- Koji, Junichiro (2008) « Politique d'immigration : l'esprit paternaliste », *Le Devoir*, 7 novembre.
- 丹羽卓 (2008) 「Québécois Nation Motion をめぐる言説とその意味」『金城学院大学論集 (人文科学編)』5巻1号、51-61頁。
- 丹羽卓 (2008) 「ケベック・ネイションとは何か：様々な統合モデルと課題」『カナダ研究年報』28号、19-36頁。
- 小畑精和 (2008) 「多文化主義の功罪」『現代の理論』春号、明石書店、82-89頁。

- 大石太郎 (2008) 「カナダのエスニック社会」 山下清海編著『エスニック・ワールド—世界と日本のエスニック社会—』明石書店、88-93 頁。
- 大石太郎 (2008) 「連邦残留か分離・独立か、揺れるケベック」 山下清海編著『エスニック・ワールド—世界と日本のエスニック社会—』明石書店、94-95 頁。
- 陶山宣明 (2008) 「アイルランドとケベックのナショナリズム比較」 『アメリカ・カナダ研究』26 号、107-115 頁。
- 陶山宣明 (2008) 「カナダとオーストラリアの連邦制での政権交代の法則—1980~2008—」 『オーストラリア研究紀要』34 号、211-218 頁。
- 竹中豊 (2008) 「フランス系カナダとケベック政治」 畠山圭一/加藤普章編著『世界政治叢書 I アメリカ・カナダ』ミネルヴァ書房、209-227 頁。
- 飯笹佐代子 (2009) 「マイノリティの人たち—イスラム、ユダヤ、シークの宗教的慣行をめぐって」 小畑精和/竹中豊編著『ケベックを知るための 54 章』明石書店、127-133 頁。
- 飯笹佐代子 (2009) 「多文化社会ケベック、共存への模索—「妥当なる調整」をめぐる論争」 『ケベック研究』1 号、62-74 頁。
- 飯笹佐代子 (2009) 「ケベックのインターカルチュラリズム—多様性の調整への模索」 『国際パネルとシンポジウム報告論文集 カナダ研究の軌跡：未来への展望』（日加修好 80 周年記念/日本カナダ学会創設 30 周年記念）、日本カナダ学会、42-48 頁。
- 古地順一郎 (2009) 「ケベック州政治のしくみ—“ケベック国家”の営み」 小畑精和/竹中豊編著『ケベックを知るための 54 章』明石書店、60-67 頁。
- 古地順一郎 (2009) 「政党政治の展開—三大政党制の行方」 小畑精和/竹中豊編著『ケベックを知るための 54 章』明石書店、68-74 頁。
- 古地順一郎 (2009) 「ケベック・ナショナリズム—分離独立・主権から「独自の社会」へ」 小畑精和/竹中豊編著『ケベックを知るための 54 章』明石書店、75-82 頁。
- 古地順一郎 (2009) 「国際社会のなかのケベック—対外政策と日本・ケベック関係」 小畑精和/竹中豊編著『ケベックを知るための 54 章』明石書店、106-112 頁。
- 立花英裕 (2009) 「問い直されるケベック・アイデンティティ ケベックの町を散策しながら」 小畑精和/竹中豊編著『ケベックを知るための 54 章』明石書店、212-218 頁。
- 立花英裕 (2009) 「多様化する文化シーン フランコフォニーとケベック」 小畑精和/竹中豊編著『ケベックを知るための 54 章』明石書店、224-228 頁。
- 竹中豊 (2009) 「アイデンティティの“危機”か“調和”か—ケベックにおける『テイラー=ブシャール・コミッション報告』の投げかけるもの—」 『研究紀要 CARITAS』43 号、カリタス女子短期大学、1-13 頁。
- 伊達聖伸 (2010) 「ケベックにおける『倫理・宗教文化』教育とライシテ」 『ケベック研究』2 号、57-64 頁。
- 伊達聖伸 (2010) 「2 つのライシテ—スタジ委員会報告書とブシャール=テイラー委員会報告書を読む」 『宗教法』29 号、117-141 頁。

- ガニョン、アラン=G./古地順一郎 (2010) 「豊かな多文化共生社会へ向けて—ケベックの試み」 辻村みよ子/大沢真里編著『ジェンダー平等と多文化共生—複合差別を超えて—』東北大学出版会、165-190 頁。
- 飯笹佐代子 (2010) 「ルネ・レモン『政教分離を問いなおす—EU とムスリムのはざままで』 (工藤庸子/伊達聖伸訳) 青土社、2010 年」 (書評) 『ケベック研究』2 号、86-90 頁。
- 古地順一郎 (2010) 「ルネ・レヴェック—ケベック人に愛された庶民派の州首相」 飯野正子/竹中豊編著『現代カナダを知るための 57 章』明石書店、234-235 頁。
- 立花英裕 (2010) 「ライシテの行方—国民国家と 21 世紀の帝國的空間」 (シンポジウム: ライシテと“多文化主義”—ケベックとフランスからの問いかけ) 『ケベック研究』2 号、79-85 頁。
- 矢頭典枝 (2010) 「ケベック問題」『現代カナダを知るための 57 章』明石書店、241-246 頁。
- Chiasson, Guy / Koji, Junichiro (2011) «Quebec Immigrant Settlement Policy and Municipalities: Fine-tuning a Provincial Template », Tolley, Erin / Young, Robert (eds) *Immigrant Settlement Policy in Canadian Municipalities*, McGill-Queen's University Press, pp. 148-191.
- 伊達聖伸 (2011) 「宗教を伝達する学校—ケベックのライシテと道徳・倫理・文化・スピリチュアリティ」『宗教研究』369 号、243-268 頁。
- 伊達聖伸 (2011) 「現代ケベックの倫理・宗教文化教育—小学校の教科書の分析を通して」『ケベック研究』3 号、25-42 頁。
- 小林順子 (2011) 「第 2 次世界大戦中の日系カナダ人収容所の子ども達とカトリック教会」『カトリック教育研究』28 号、30-43 頁。
- 仲村愛 (2011) 「ケベック州『妥当なる調整』に関する試論: 多文化社会における正義の観点」『教養デザイン研究論集』2 号、1-19 頁。
- 小畑精和 (2011) 「講義要旨: ジャン・ボベロ氏特別講義 現代社会と宗教—ケベックのブシャール=テイラー報告をめぐる」『いすみあ』3 号、135-138 頁。
- 陶山宣明 (2011) 「バイリンガル国家カナダの行方—ケベックは留まるのか?—」『帝京平成大学紀要』22 号、181-189 頁。
- 竹中豊/飯笹佐代子/矢頭典枝 (2011) ジェラルール・ブシャール/チャールズ・テイラー『多文化社会ケベックの挑戦』(翻訳) 明石書店。
- Bouchard, Gérard (2012) *L'interculturalisme. Un point de vue québécois*. Montréal, Boréal, 286 pages (voir aussi traduction anglaise au VII-H-15).
- 飯笹佐代子 (2012) 「多文化共生社会 マイノリティ文化との『妥当なる調整』」 飯野正子/竹中豊編著『カナダを旅する 37 章』明石書店、148-153 頁。
- 古地順一郎 (2012) 「モンリオール—さまざまな立場で見つめた国際都市」 飯野正子/竹中豊編著『カナダを旅する 37 章』明石書店、107-114 頁。
- 古地順一郎 (2012) 「ケベックにおける移民・文化的マイノリティとその統合政策—政府行動計画実施委員会 (1981-1984 年) を中心に—」『ケベック研究』4 号、72-89 頁。

- 仲村愛 (2012) 「国民統合と多文化主義：カナダ多文化主義を事例として」『社会科学研究所紀要』50号
2巻、337-355頁。
- 仲村愛 (2012) 「ケベック州『和解』の原理：ブシャール=テイラー報告を読む」『ケベック研究』4号、
90-106頁。
- 丹羽卓 (2012) アラン=G・ガニョン/ラファエル・イアコヴィーノ『マルチナショナリズム：ケベックと
カナダ・連邦制・シティズンシップ』（監訳）（古地順一郎他訳）彩流社。
- 丹羽卓 (2012) 「ジェラルール・ブシャール、チャールズ・テイラー（編）『多文化社会ケベックの挑戦』（竹
中豊、飯笹佐代子、矢頭典枝訳）明石書店、2011年」（書評）『ケベック研究』4号、137-141頁。
- 小畑精和 (2012) 「多文化共生論の幻想」『現代の理論』春号、169-175頁。
- 陶山宣明 (2012) 「カナダの政治文化の地域性——移民の果たしたもう一つの役割——」『帝京平成大学紀
要』23巻（1）、99-107頁。
- 矢内琴江 (2012) 「ケベックの第三波フェミニズムについて」『女性空間』29号、108-121頁。
- Bouchard, Gérard (dir.) (2013) *National Myths: Constructed Pasts, Contested Presents*. New York, Routledge, 306
pages.
- Bouchard, Gérard (2013) « Qu'est-ce que l'interculturalisme ? Une perspective québécoise et internationale », *Peace
and Culture*, vol. 5, n° 1, mars, p. 3-13 (traduction japonaise de VII-B-283).
- ブシャール、ジェラルール (2013) 「基調講演<インターカルチュラリズム>とは何か——ケベック、そして
グローバルな観点から」青山学院大学国際交流共同研究センター編『多文化社会の課題と挑戦 インタ
ーカルチュラリズムの可能性』（国際シンポジウム報告書）2-8頁。
- 伊達聖伸 (2013) 「ライシテのアプローチによる倫理・宗教文化教育と間文化主義（アンテルキュルチュ
リズム）の精神」日本ケベック学会日ケ交流40周年事業編集委員会『遠くて近いケベック』御茶の水書
房、194-199頁、203-204頁。
- 伊達聖伸 (2013) 「アラン=G・ガニョン、ラファエル・イアコヴィーノ著『マルチナショナリズム』彩流
社、2012年」（書評）『ケベック研究』5号、194-198頁。
- 池内光久 (2013) 「ケベック講座（産業・経済）の10年」『ケベック研究』5号、152-166頁。
- Nakamura, Ai (2013) « Des problèmes de l'interculturalisme au Québec », *Études Québécoises*, Association Coréenne
d'Études Québécoises, n° 7, pp. 7-20.
- 丹羽卓 (2013) 「マルチナショナリズムとケベックのネーション化に占めるフランス語の中心的地位」『ケ
ベック研究』5号、65-82頁。
- 真田桂子 (2013) 「ジェラルール・ブシャール/チャールズ・テイラー編（竹中豊/飯笹佐代子/矢頭典枝訳）
『多文化社会ケベックの挑戦——文化的差異に関する調和の実践——ブシャール=テイラー報告』明石書店、
2011年」（書評）日本カナダ学会ニューズレター、96号、17-19頁。
- 陶山宣明 (2013) 「スコットランドとケベックのナショナリズム比較——独立は必然の選択か？——」『帝京
平成大学紀要』24号（1）、85-92頁。

- 矢内琴江 (2013) 「女性たちによる自主運営アート施設の可能性——モンリオール市のラサントラル／ギャラリー・パワーハウスの例」 『ケベック研究』 5号、135-151 頁。
- Bouchard, Gérard (2014) *Raison et déraison du mythe. Au cœur des imaginaires collectifs*. Montréal, Boréal, 234 pages.
- 飯笹佐代子 (2014) 「〈ケベック価値憲章〉をめぐる論争」 『ケベック研究』 6号、30-50 頁。
- Ikeuchi, Mitsuhsa (2014) « Économie et industries du Québec » (Symposium : Le Québec et sa créativité, entre le national et le transnational), *Revue japonaise des Etudes québécoises*, n° 6, pp.82-86.
- 古地順一郎 (2014) 「ケベック州議会選挙——ケベック党大敗の原因と余韻——」 (報告) 『日本カナダ学会ニューズレター』 98号、2-4 頁。
- 仲村愛 (2014) 「英語系カナダとフランス語系カナダの分断：歴史的生成と二元論」 『教養デザイン研究論集』 6号、1-20 頁。
- 仲村愛 (2014) 「ネイション・モデルとしてのケベック間文化主義」 『ケベック研究』 特別号 (小畑精和先生追悼論集)、138-148 頁。
- 小畑精和 (2014) 「フランス語圏におけるケベック文化政策の影響」 『明治大学人文科学研究紀要』 74号、2-35 頁。
- 丹羽卓 (2014) 「なぜケベックとケベック外のカナダはわかり合えないのか？——言語観とアイデンティティを巡る対立——」 『カナダ研究年報』 34号、19-36 頁。
- 丹羽卓 (2014) 「ケベコワの多くは本当にラシストなのか？——間文化主義の現在を問う——」 『ケベック研究』 特別号、57-71 頁。
- 陶山宣明 (2014) 「ケベックの移民・難民政策」 『ケベック研究』 特別号、167-174 頁。
- 矢内琴江 (2014) 「フェミニズム・アートの「美術館」の展示に関する一考察——ラサントラル／ギャラリー・パワーハウス (カナダ・ケベック州) を事例にして」 『ジェンダー研究 21』 3巻、64-90 頁。
- 矢内琴江 (2014) 「世界の子ども・若者事情③カナダ 路上に出る学生たち」 (コラム) 『教育』 822号、106-107 頁。
- 矢内琴江 (2014) 「世界の子ども・若者事情⑤カナダ 女性たちの『楓の春』」 (コラム) 『教育』 827号、104-105 頁。
- 荒木隆人 (2015) 『カナダ連邦政治とケベック政治闘争』 法律文化社。
- 荒木隆人 (2015) 「ブシャール＝テイラー委員会による間文化主義のケベック社会における受容に関する一考察」 『ケベック研究』 9号、5-19 頁。
- 荒木隆人 (2015) 「ライシテと『ケベック価値憲章』に関する考察——歴史文化的遺産と宗教的シンボルを巡る論争を通じて——」 『カナダ研究年報』 37号、1-20 頁。
- 飯笹佐代子 (2015) 「ケベックのインターカルチュラル教育——多様な宗教文化について学ぶ」 (シンポジウム：グローバル時代における多文化教育を問う) 『オセアニア教育研究』 21号、22-36 頁。
- 岩崎真紀 (2015) 「イスラーム社会における宗教的マイノリティ」 『宗教研究』 88巻別冊、2015年3月、65-66 頁。(日本宗教学会第73回学術大会研究報告、同志社大学今出川キャンパス、2014年9月。)
- 古地順一郎 (2015) 「ケベックにおける移民統合をめぐる政治——州政府と社会の関係を中心に (1976-1991

- 年) —」『カナダ研究年報』35 巻、1-20 頁。
- 小松祐子 (2015) ジェラルド・ブシャール著「間文化主義とは何か」(翻訳)『論叢現代語・現代文化』(筑波大学 人文社会科学研究科 現代語現代文化専攻) 14 号、53-89 頁。
- 丹羽卓 (2015) アラン=G. ガニョン『マルチナショナル連邦制』(翻訳) 彩流社。
- 陶山宣明 (2015) 「ケベックでの第 3 政党の台頭」『ケベック研究』7 号、100-110 頁。
- 矢内琴江 (2015) 「ケベックにおけるフェミニズムの観点からの「意識化」実践—民衆運動の支援者ネットワークを事例に」『ケベック研究』7 号、67-84 頁。
- 矢内琴江 (2015) 「民衆運動における意識化実践が形成する「省察的实践コミュニティ—「ケベック意識化グループ」の設立萌芽期 (1970 年代~1980 年代) に注目して」、『社会教育学研究』51 巻、2 号、1-11 頁。
- 矢内琴江 (2015) 「川幅の狭まる場所で生きる人々—カナダ・ケベック州の「マイノリティ」たち」『教育』、834 号、かもがわ出版、74-82 頁。
- 矢内琴江 (2015) 「世界の子ども・若者事情⑧カナダ 若者の瞳が映し出すもの」(コラム)『教育』、830 号、106-107 頁。
- 荒木隆人 (2016) 「ケベック独立運動とジェイコブズ都市経済論」『別冊 環』22 号、藤原書店、124-131 頁。
- 荒木隆人 (2016) 「カナダ・ケベック憲法闘争とケベック・ナショナリズム—州民投票から 20 年の今日から振り返る—」(ワークショップ: 州民投票から 20 年—ケベック内政の批判的検討)『ケベック研究』8 号、121-123 頁。
- Date, Kiyonobu (2016) « Quel avenir de la mémoire ? Les postérités de L'Avenir de la mémoire de Fernand Dumont », *The Journal of American and Canadian Studies*, n° 33, pp. 55-69.
- 伊達聖伸 (2016) 「ケベックにおける間文化主義的なライシテ—その誕生と試練 (上)」『思想』1110 号、6-28 頁。
- 伊達聖伸 (2016) 「ケベックにおける間文化主義的なライシテ—その誕生と試練 (下)」『思想』1111 号、137-154 頁。
- 伊達聖伸 (2016) 「荒木隆人著『カナダ連邦政治とケベック政治闘争—憲法闘争を巡る政治過程』法律文化社、2015 年」(書評)『ケベック研究』8 号、135-139 頁。
- 岩崎真紀 (2016) 「イスラーム世界のマイノリティ—ディアスポラのコプト・キリスト教徒—」塩尻和子編著『変革期イスラーム社会の宗教と紛争』明石書店、263-283 頁。
- 岩崎真紀 (2016) 「コプト・ディアスポラにおけるユースグループの役割」『宗教研究』89 巻別冊、265-266 頁。(日本宗教学会第 74 回学術大会研究報告、創価大学八王子キャンパス、2015 年)
- 古地順一郎 (2016) 「コメント: 1995 年州民投票がケベック州内政に与えた影響」(ワークショップ: 州民投票から 20 年—ケベック内政の批判的検討)『ケベック研究』8 号、128-130 頁。
- 古地順一郎 (2016) 「上智大学アメリカ・カナダ研究所編『北米研究入門—「ナショナル」を問い直す』上智大学新書、上智大学出版、2015 年」(書評)『ケベック研究』8 号、140-144 頁。
- 丹羽卓 (2016) 「ケベックとフランデレンの社会統合政策—二つのネーションの比較研究—」『金城学院

- 大学論集（人文科学編）』12巻2号、57-71頁。
- 丹羽卓（2016）「ケベックの社会統合政策の進展」『ケベック研究』8号、44-63頁。
- 大石太郎（2016）「ホスト社会としてのケベックのディレンマ——「ケベックの価値」憲章をめぐる論争から——」山下清海編著『世界と日本の移民エスニック集団とホスト社会——日本社会の多文化化に向けたエスニック・コンフリクト研究——』明石書店、175-199頁。
- 田澤卓哉（2016）「1995年以降のケベック政治の展開」（ワークショップ：州民投票から20年——ケベック内政の批判的検討）『ケベック研究』8号、117-120頁。
- 矢内琴江（2016）「女性たちの創作活動を支える知の生成——カナダのフェミニズム・アートのギャラリーを事例にして」小林富久子／村田晶子／弓削尚子編『ジェンダー研究／教育の深化のために——早稲田からの発信』彩流社、157-178頁。
- 矢頭典枝（2016）「はじめに：1995年の州民投票を振り返って」（「ワークショップ：州民投票から20年——ケベック内政の批判的検討」『ケベック研究』8号、115-116頁。
- 荒木隆人（2017）「ピエール・トルドーとルネ・レヴェック」細川道久編著『カナダの歴史を知るための50章』明石書店、210-212頁。
- Bouchard, Gérard (2017) *L'Europe en quête d'Européens. Pour un nouveau rapport entre Bruxelles et les nations.* Bruxelles, P.I.E. Peter Lang, 228 pages.
- 伊達聖伸（2017）「フランス、ベルギー、ケベックのライシテを比較する——成り立ちと現在の課題から」『金城学院大学キリスト教文化研究所紀要』21号（別冊）、63-83頁。
- 伊達聖伸（2017）「ヴェール論争とフェミニストの分裂——「ケベック価値憲章」をめぐる（シンポジウム：ケベック社会と女性）『ケベック研究』9号、136-138頁。岩崎真紀（2017）「コプト・ディアスポラの発展——カナダのコプト・キリスト教徒移民を事例として」三代川寛子編著『東方キリスト教諸教会 基礎データと研究案内』明石書店、2017年8月、97-121頁。
- 飯笹佐代子（2017）「二言語・多文化主義政策の成立」「コラム：ケベック州とインターカルチュラルリズム」細川道久編著『カナダの歴史を知るための50章』明石書店、213-220頁。
- 古地順一郎（2017）「ケベック州分離独立運動——「静かな革命」とそれ以降」細川道久編著『カナダの歴史を知るための50章』明石書店、204-209頁。
- 丹羽卓（2017）ジェラルド・ブシャール『間文化主義——多文化共生の新しい可能性』（監訳）（荒木隆人／古地順一郎／小松祐子／伊達聖伸／仲村愛訳）彩流社。
- 丹羽卓（2017）「What is English Canada?: Reflection from the Point of View of Language and Identity」『金城学院大学論集（人文科学編）』14巻1号、49-55頁。
- 丹羽卓（2017）「ケベックの「開かれたライシテ」——自由主義と共和主義の狭間で」『金城学院大学キリスト教文化研究所紀要』21号（別冊）、45-62頁。
- 丹羽卓（2017）「フェルナン・デュモン著『記憶の未来——伝統の解体と再生』（伊達聖伸訳）白水社、2016年」（書評）『ケベック研究』9号、143-146頁。
- 矢内琴江（2017）「女性たちの活動を支えるフェミニズムのネットワーク」（シンポジウム：ケベック社会

と女性)『ケベック研究』9号、131-132頁。

飯笹佐代子(2018)「ケベックの視点から」(シンポジウム:「カナダの『憲法』・多文化主義と教育」『カナダ教育研究』17号、14-21頁。

仲村愛(2018)「間文化主義と多文化主義——ケベック州、連邦及びその他の州の政策比較研究——」『カナダ研究年報』8号、31-52頁。

矢内琴江(2018)「ケベックのフェミニズムに関する社会教育学研究——実践コミュニティの意識化と知の生成」(博士論文、早稲田大学大学院文学研究科)。

◆ 芸術

小畑精和(2008)「言語の後退と身体性の前進——シルク・ド・ソレイユの常設興行——」『千年紀文学』76号。

神崎舞(2009)「詩情あふれる世界への旅——日加共同制作『TRAIN』——」(劇評)『Act』19号、14-15頁。

神崎舞(2010)「ロベール・ルパージュ演出『アンデルセン・プロジェクト』——隠蔽された自己の表象——」『演劇学論叢』11号、420-438頁。

小畑精和(2010)「講義要旨:加納由起子氏講演 1960年仏系カナダにおけるダイレクトシネマ誕生の経緯——ピエール・ペローによるドキュメンタリーの構想」『いすみあ』2号、65-67頁。

Kanzaki, Mai (2011) « The Image of the Lotus in Robert Lepage's *The Blue Dragon* and Hergé's *The Blue Lotus* », *Japanese Review of Canadian Literature*, n° 19, pp. 37-52.

神崎舞(2011)「『猟銃』重厚さ増し観客魅了」(劇評)『大阪日日新聞』21804号、12頁。

小畑精和(2011)「木を植えた男——文明による破壊と人間の力による復興——」『千年紀文学』92号。

小畑精和(2011)「バラはバラの木に咲いていて欲しかった——『大いなる河の流れ』から考えさせられること」『フレデリック・バック展図録』日本テレビ放送網、296-299頁。

神崎舞(2012)「越境するサーカス——ロベール・ルパージュ演出シルク・ドゥ・ソレイユの『トーテム』」『フィロカリア』29号、55-67頁。

神崎舞(2012)「ロベール・ルパージュ演出『ドラゴンズ・トリロジー』におけるケベコワのアイデンティティの変遷」『カナダ研究年報』32号、1-17頁。

神崎舞(2012)「ジェンダーからの逸脱——『エオンナガタ』におけるシュヴァリエ・デオン像——」『待兼山論叢』46号、1-22頁。

神崎舞(2012)「カナダ演劇『ハイライフ』アウトローたちの幻想」(劇評)『大阪日日新聞』22008号、18頁。

神崎舞(2013)「パフォーミング・アーツが繋ぐ日本とケベック」日本ケベック学会日ケ交流40周年記念事業編集委員会『遠くて近いケベック』御茶ノ水書房、281-283頁。

神崎舞(2013)「『ポリグラフ——うそ発見器』——消化から昇華へ——」(劇評)『Act』24号。

Kanzaki, Mai / Wise, Jennifer (2013) « The Japanese-Garden Aesthetics of Robert Lepage: *Shukukei*, *Mitate*, and *Fusuma-e* in *Seven Streams of the River Ota* and Other Works », *Theatre Research International*, vol. 38, n° 3,

pp. 196-213.

- 小倉和子 (2013)「概観 ケベックのパフォーミングアーツと間文化主義」日本ケベック学会日ケ交流 40 周年記念事業編集委員会『遠くて近いケベック』御茶の水書房、122-127 頁。
- 岡見さえ (2013)「エセー：ケベックのパフォーミングアーツと日本」日本ケベック学会日ケ交流 40 周年記念事業編集委員会『遠くて近いケベック』御茶の水書房、154-158 頁。
- 岡見さえ (2013)「エドゥアール・ロックとラ・ラ・ラ・ヒューマン・ステップス—ケベック・ダンスにおける振付の革新の例として」『ケベック研究』5 号、113-134 頁。
- 竹中豊 (2013)「絵画とアイデンティティ—19 世紀カナダ・ケベックからの問いかけ—」『研究紀要 CARITAS』47 号 カリタス女子短期大学、1-16 頁。
- 神崎舞 (2014)「ロベール・ルパージュ作品における映像術」『ケベック研究』6 号、51-67 頁。
- 神崎舞 (2014)「ストラットフォード・フェスティバル」(公演パンフレット)『ご臨終』、26-27 頁。
- Ogura, Kazuko (2014) « Art visuel, art du spectacle vivant » (Symposium : Le Québec et sa créativité, entre le national et le transnational), *Revue japonaise des Etudes québécoises*, n° 6, pp. 73-77.
- 神崎舞 (2015)「地域活性化の起爆剤—夏の演劇フェスティバル」『国際演劇年鑑 2015 世界の舞台芸術を知る』80-86 頁。
- 神崎舞 (2015)「モーリス・パニッチ作、吉原豊司『ご臨終』ハナ・モスコヴィッチ作、吉原豊司『ベルリンの東』」(書評)『カナダ文学研究』23 号、127-129 頁。
- 竹中豊 (2015)「クラランス・ガニオン：ケベックの風景画に見るアイデンティティの表現」『研究紀要 CARITAS』49 号 カリタス女子短期大学、69-80 頁。
- 神崎舞 (2016)「カナダのシェイクスピア—『ロミオとジュリエット』(1989)におけるプレーリーの役割—」『カナダ研究年報』36 号、1-15 頁。
- Kanzaki, Mai (2016) « Collecting the Fragments of Identity: The Electric Company Theatre Production of *The Wake* », *Japanese Review of Canadian Literature*, n° 24, pp. 99-115.
- 神崎舞 (2016)「演劇」(翻訳)コーラル・アン・ハウエルズ/エヴァ=マリー・クローラー編『ケンブリッジ版 カナダ文学史』彩流社、657-681 頁。
- 神崎舞 (2016)「ケベックの舞台芸術—言葉の壁を越えて—」『国際演劇年鑑 2016 世界の舞台芸術を知る』87-93 頁。
- IMURA Manami (2017) « Poésie dans *Tom à la ferme* de Xavier Dolan : structure, langue et olfaction », *Revue japonaise des Etudes québécoises*, n° 9, pp. 33-45.
- 神崎舞 (2017)「ポスト・ルパージュ世代の台頭に見るカナダ演劇の未来」『国際演劇年鑑 2017 世界の舞台芸術を知る』、46-52 頁。
- 郭俊逸 (Kuo, Chun-Yi) (2017) « Étude sur *Miron : un homme revenu d'en dehors du monde*, l'essai documentaire québécois réalisé par Simon Beaulieu », mémoire de master, Université nationale central (Taiwan).
- 竹中豊 (2017)「絵画と地域研究のあいだで—19~20 世紀初頭におけるカナダの独自性の模索、そして日本—」『研究紀要 CARITAS』51 号、カリタス女子短期大学、1-32 頁。

神崎舞 (2018) 「ロベール・ルパージュの『シェイクスピア三部作』における操作される視線」『近現代演劇研究』7号、32-40頁。

神崎舞 (2018) 「連邦結成 150 周年を迎えたナショナル・アーツ・センターの試み」『国際演劇年鑑 2018 世界の舞台芸術を知る』66-72頁。

郭俊逸 (Kuo, Chun-Yi) (2018) « Histoire comme boucle fermée : forme narrative dans *Miron : un homme revenu d'en dehors du monde* de Simon Beaulieu », *Revue japonaise des études québécoises*, n° 10, pp.57-69.

杉原賢彦 (2018) 「カナダ、あるいはダイレクト・シネマの周辺事情」『neoneo #11』neoneo 編集室、76-81頁。

◆ 言語

小畑精和 (2008) 「ジャン=ブノワ・ナドー&ジュリー・バーロウ著 立花英裕/中尾ゆかり訳『フランス語のはなし—もうひとつの国際共通語』」(書評)『ふらんす』8月号、白水社、74頁。

立花英裕 (2008) ジャン=ブノワ・ナドー&ジュリー・バーロウ『フランス語のはなし—もう一つの国際共通語』(監修)大修館書店。

矢頭典枝 (2008) 『カナダの公用語政策』リーベル出版。

矢頭典枝 (2008) 「ケベック・フランス語憲章」日本カナダ学会編『新版 史料が語るカナダ』有斐閣、94-95頁。

小畑精和 (2009) 「カナダのフランコフォン」『ふらんす』3月号、白水社、39-41頁。

矢頭典枝 (2009) 「〈フランス語社会〉の視点から」(設立記念シンポジウム ケベックのおもしろさ—4つの視点から)『ケベック研究』1号、22-27頁。

矢頭典枝 (2009) 「フランス語憲章」「アングロフォン」小畑精和/竹中豊編著『ケベックを知るための54章』明石書店、154-170頁。

矢頭典枝 (2009) 「カナダの言語」日本カナダ学会編『はじめて出会うカナダ』有斐閣、118-126頁。

丹羽卓 (2010) 「ジャン=ブノワ・ナドー&ジュリー・バーロウ著『フランス語のはなし—もうひとつの国際共通語』(立花英裕監修、中尾ゆかり訳)、大修館書店、2008年」(書評)『ケベック研究』2号、91-99頁。

小松祐子 (2012) 「フランス語世界への旅—言語へのこだわり」飯野正子/竹中豊編著『カナダを旅する37章』明石書店、140-147頁。

鳥羽美鈴 (2012) 『多様性のなかのフランス語：フランコフォニーについて考える』関西学院大学出版会。

矢頭典枝 (2013) 「ケベック・フランス語憲章の社会言語学的分析：言語計画論と言語選択の観点から」『ケベック研究』5号、43-64頁。

立花英裕 (2015) 「助詞ハと日本語統語論をめぐって—モントリオールで出会った日本語論」『季刊 iichiko』128号、31-44頁。

Lehoux-Jobin, Etienne / Francoeur, Aline (2016) « L'adaptation des livres de cuisine européens de langue française pour le public québécois : premier survol », Francoeur, Aline, dir. *Adaptation dans les espaces*

francophones : Formes, expressions et diffusion, Presses de l'Université Laval, pp. 137-159.

- 矢頭典枝 (2016) 「カナダ」『知っておきたい環太平洋の言語と文化』神田外語大学出版局、1-10 頁。
- 近藤野里 (2017) 「ケベックのフランス語の特徴について」『名古屋外国語大学外国語学部紀要』52 号、123-142 頁。
- 大石太郎 (2017) 「ケベック州における英語話者の居住分布と言語環境への適応」『ケベック研究』9 号、59-74 頁。
- 大石太郎 (2017) 「カナダにおける二言語主義の現状と課題」『E-journal GEO』12 巻 1 号、12-29 頁。
- 矢頭典枝 (2017) 「ケベック・フランス語の職業名と文体の女性形化」(シンポジウム：ケベック社会と女性)『ケベック研究』9 号、133-135 頁。
- 矢頭典枝 (2017) 「ジェンダーの視点からみるケベック・フランス語の言語政策——「通性的な書き方」の定着を目指して——」『ふらんぼー』42 号、東京外国語大学フランス語研究室、40-61 頁。

◆ 文学

- 真田桂子 (2006) 『トランスカルチュラルリズムと移動文学——多元社会ケベックの移民と文学——』彩流社。
- 小倉和子 (2007) 「小さな幸福の権利——ガブリエル・ロワ『東の間の幸福』読解の試み」『立教大学フランス文学』36 号、1-14 頁。
- 小倉和子 (2008) 「アンヌ・エベール『シロカツオドリ』の海景——ポエジーとサスペンスのあいだで」『立教大学フランス文学』37 号、43-57 頁。
- 真田桂子 (2008) 「多元社会ケベックの移民と文学——トランスカルチュラルリズムと移動文学の起源と興隆——」(博士論文、大阪市立大学文学研究科)。
- 真田桂子 (2008) 「二つの「幸福」なる文学にみる多元社会ケベックの変貌——「二つの孤独」からトランスミグランスへ」『阪南論集』人文・自然科学編 43 巻 2 号、阪南大学学会、33-42 頁。
- 真田桂子 (2008) 「市川慎一著『アカディアンの過去と現在——知られざるフランス語系カナダ人』(彩流社 2007 年)」(書評) *Cahier*, 2 号、日本フランス語フランス文学会、16-17 頁。
- 小畑精和 (2009) 「マルチカルチャリズムとインターカルチャリズム——ケベック文学を通してみる多文化社会」『神奈川大学評論』62 号、84-91 頁。
- 小畑精和 (2009) 「〈文化〉の視点から」(設立記念シンポジウム ケベックのおもしろさ——4 つの視点から)『ケベック研究』1 号、36-39 頁。
- 小倉和子 (2009) 「ケベック文学への誘い——多様性にかかれるフランス語」『ことば・文化・コミュニケーション』創刊号、181-192 頁。
- Ogura, Kazuko (2009) «Symbolisme poétique dans les romans d'Aki Shimazaki» *Études québécoises*, Association Coréenne d'Études Québécoises, n° 3, pp. 115-129.
- 小倉和子 (2009) 「ガブリエル・ロワとアンヌ・エベール：ケベック文学を代表する 2 人の女性作家」小畑精和／竹中豊編著『ケベックを知るための 54 章』明石書店、304-308 頁。
- 小倉和子 (2009) 「山出裕子著『ケベックの女性文学——ジェンダー・エクリチュール・エスニシティ』」(書

- 評)『ジェンダー研究』12号、165-168頁。
- 真田桂子(2009)「ケベックにおける新世代文学とトランスミグランス——「文化的寛容性」の議論と伝語憲章施行30年後の状況を背景に——」『阪南論集』人文・自然科学編44巻2号、阪南大学学会、61-71頁。
- Sanada, Keiko (2009) « Littérature et révolte chez les écrivains asiatiques d'expression française, Ying Chen et Aki Shimazaki », *Faire vivre les Identités francophones, Les Actes du XII^e Congrès mondial de la FIPF de Québec 2008, tome III Enjeux pédagogiques et didactiques*, Paris (FIPF= Fédération internationale des Professeurs de Français), pp.889-895.
- 真田桂子(2009)「トランスカルチュラリズムと移民作家」、小畑精和／竹中豊編著『ケベックを知るための54章』、明石書店、321-327頁。
- Tachibana, Hidehiro (2009) « Migration, créolisation et postcolonial—le cas d'Émile Ollivier », *Études québécoises, Association Coréenne d'Études Québécoises*, n° 3, pp. 131-151.
- 小畑精和(2010)「ケベック演劇研究」『明治大学人文科学研究所紀要』67号、88-118頁。
- 小畑精和(2010)「戦争の記憶——アキ・シマザキの場合」(シンポジウム:「カナダ文学にみる戦争と記憶」)『カナダ文学研究』18号、17-19頁。
- 小畑精和(2010)「アントニーヌ・マイエ著、大矢タカヤス訳『荷車のペラジー——失われた故郷への旅』」(書評)『カナダ文学研究』18号、74-76頁。
- 小畑精和(2010)「大矢タカヤス著『地図から消えた国、アカディの記憶:「エヴァンジェリンヌ」とアカディアン』」(書評) *Cahier*, 6号、28-29頁。
- 小倉和子(2010)「アキ・シマザキの5部作における詩的象徴性とく移住する(者の)エクリチュール」『ケベック研究』2号、33-48頁。
- 小畑精和(2011)「ケベック文学の新しい潮流——アキ・シマザキを例として(特集 変貌する〈フランス文学〉——その未踏の拓がり)」『文芸研究』114号、85-94頁。
- 小畑精和(2011)「ダニー・ラフェリエール作、小倉和子訳『帰還の謎』」(書評)『カナダ文学研究』19号、61-63頁。
- 小倉和子(2011)ダニー・ラフェリエール『帰還の謎』(翻訳)藤原書店。
- 立花英裕(2011)ダニー・ラフェリエール『ハイチ震災日記』(翻訳)藤原書店。
- 立花英裕(2011)『ハイチ震災日記』(紹介文)『機』234号、藤原書店、6-7頁。
- Hiromatsu, Isao (2012) « *Mélancolie postcoloniale: relecture de la mémoire collective et du lieu d'appartenance identitaire chez Patrick Chamoiseau et Émile Ollivier* », Thèse doctorale, Université de Montréal.
- Hiromatsu, Isao (2012) « La correspondance avec les éditeurs: histoire éditoriale des œuvres d'Émile Ollivier », dans *Émile Ollivier: un destin exemplaire* (dir. Lise Gauvin), Mémoire d'encrier, pp. 119-142.
- Obata, Yoshikazu (2012) « Fragmentation baroque du monde: Une lecture du « Torrent » d'Anne Hébert », *Les Cahiers Anne Hébert*, n° 12, pp. 23-32.

- 小畑精和 (2012) 「ケベック郷土小説にみる移動と記憶」(日本カナダ文学会 30 周年記念シンポジウム 移動と記憶 : 展望フランス語圏カナダ文学) 『カナダ文学研究』 20 号、31-38 頁。
- 小倉和子 (2012) 「フランス語系作家の世界を旅する—アンヌ・エベール再訪」飯野正子/竹中豊編著『カナダを旅する 37 章』明石書店、225-231 頁。
- Ogura, Kazuko (2012) « Paysages, désir et délivrance dans *Les fous de Bassan* » *Les Cahiers Anne Hébert*, n° 12, pp. 33-42.
- 小倉和子 (2012) 「ダニー・ラフェリエールにおける漂流と記憶」(日本カナダ文学会 30 周年記念シンポジウム 移動と記憶 : 展望フランス語圏カナダ文学) 『カナダ文学研究』 20 号、49-56 頁。
- 真田桂子 (2012) 「ジャック・ブローにおける内的流浪と記憶」『カナダ文学研究』 20 号、日本カナダ文学会、39-48 頁。
- Sasaki, Nao (2012) « Désespoir ou Espoir : l'Hôpital dans *Bonheur d'occasion* de Gabrielle Roy », *Studies in Humanities*, n° 3, pp. 21-35.
- Tachibana, Hidehiro (2012) « Dany Laferrière et l'espace urbain », *Études québécoises*, Association Coréenne d'Études Québécoises, n° 6, pp.149-169.
- 立花英裕 (2012) ダニー・ラフェリエール『ニグロと疲れないでセックスする方法』(翻訳)、藤原書店。
- 廣松勲 (2013) 「文化都市モンレアルにおける現代ハイチ文学」日本ケベック学会日ケ交流 40 周年記念事業編集委員会『遠くて近いケベック』、御茶の水書房、255-257 頁。
- 小畑精和 (2013) 「紋切り型と戯れる『ニグロと疲れないでセックスする方法』」(書評) 『ふらんす』 6 月号、72 頁。
- 小倉和子 (2013) ナタリー・ワテヌ「ケベック詩の誕生」(翻訳) 『ことば・文化・コミュニケーション』 5 号、99-112 頁。
- 小倉和子 (2013) 「ダニー・ラフェリエール著『ニグロと疲れないでセックスする方法』(立花英裕訳) 藤原書店、2012 年」(書評) 『ケベック研究』 5 号、186-190 頁。
- 真田桂子 (2013) 「キム・チュイ著『小川』(山出裕子訳) 彩流社、2012 年」(書評) 『ケベック研究』 5 号、191-193 頁。
- Sasaki, Nao (2013) « Deux visions du progrès : Le rôle de l'hôpital dans *La Rivière sans repos* de Gabrielle Roy », *Revue japonaise de littérature canadienne*, n° 21, pp. 69-82.
- Sasaki, Nao (2013) « La Thématique de l'hôpital dans *Alexandre Chenevert* et *Est-ce que je te dérange ?* : Une représentation de l'individu et de la société moderne », *Revue japonaise des Études québécoises*, n° 5, pp. 97-112.
- Seki, Mirei (2013) « L'esthétique littéraire de la soustraction dans *Ru* de Kim Thúy », *Études québécoises*, Association Coréenne d'Études Québécoises, n° 7, pp. 23-36.
- 立花英裕 (2013) 「ダニー・ラフェリエールと日本」『人文論集』 51 号、早稲田大学法学会、57-68 頁。
- 立花英裕 (2013) 「概観 現代ケベックの出発点になった「静かな革命」—その言語と文学」日本ケベック学会日ケ交流 40 周年記念事業編集委員会『遠くて近いケベック』御茶の水書房、78-90 頁。
- 小倉和子 (2014) 「ダニー・ラフェリエールのアカデミー・フランセーズ入り」『ケベック研究』 特別号、

- 149-157 頁。
- 小倉和子 (2014) ダニー・ラフェリエール『甘い漂流』(翻訳) 藤原書店。
- 小倉和子 (2014) 「<速報>ダニー・ラフェリエール アカデミー・フランセーズ会員に」『環』冬号、86-87 頁。
- 真田桂子 (2014) 「ケベックにおける『移動文学』の浸透と波及——『フランス移動文学作家事典 1981-2012』の刊行をめぐって」『阪南論集』人文・自然科学編 49 巻 2 号、81-93 頁。
- 真田桂子 (2014) 「『国民文学』から『移動文学』へ：ケベック文学の多元化とその波及」(ワークショップ：ケベックとベルギー：フランス語圏の多元社会——言語・政治・文学)『ケベック研究』6 号、119-128 頁。
- Sasaki, Nao (2014) « Alexandre Chenevert : La raison du titre », *Studies in Humanities*, n° 6, pp. 21-32.
- Sasaki, Nao (2014) « Image de femmes et la fonction du corps dans *La Cohorte fictive* de Monique LaRue », *Studies in Humanities*, n° 7, pp. 1-16.
- 佐々木菜緒 (2014) 「ガブリエル・ロワ『東の間の幸福』レアリズム試論——病院による都市社会および階級社会の形象化」『ケベック研究』特別号、39-50 頁。
- 佐々木菜緒 (2014) 「小畑精和『ケベック文学研究——フランス系カナダ文学の変容——』御茶の水書房、2003 年」(書評)『ケベック研究』特別号、182-185 頁。
- 立花英裕 (2014) 「ダニー・ラフェリエールと世界文学」『ケベック研究』特別号、88-98 頁。
- 立花英裕 (2014) ダニー・ラフェリエール『吾輩は日本作家である』(翻訳) 藤原書店。
- 廣松勲 (2015) 「現代ケベック文学の諸潮流：移民文学と新郷土文学を中心に」『Nord-est』(日本フランス語フランス文学会東北支部会会報) 7・8 号合併号、日本フランス語フランス文学会東北支部会、84-105 頁。
- 廣松勲 (2015) 「ダニー・ラフェリエール著『吾輩は日本作家である』(立花英裕訳)『甘い漂流』(小倉和子訳)」藤原書店、2014 年」(書評)『ケベック研究』7 号、111-115 頁。
- 一條由紀 (2015) 「イン・チェンを読む (1) ——『水の記憶』のテーマ分析——」『北海学園大学学園論集』166 号、67-82 頁。
- 小倉和子 (2015) 「ケベック文学への誘い」『ふらんす』10 月号、16-17 頁。
- 佐々木菜緒 (2015) 「現代ケベック文学試論 (1980~90 年代) ——アンヌ・エバー『オレリアンとクララ、マドモワゼル、イギリス人中尉』」『カナダ文学研究』23 号、89-106 頁。
- 佐々木菜緒 (2015) 「アンヌ・エバー『カムラスカ』における表現分析——登場人物の社会的役割と思い込み表現の関係」『フランス語フランス文学研究』107 号、171-185 頁。
- 佐々木菜緒/仲村愛 (2015) ジル・デュピュイ「間文化的なものから超境文化的なものへ——ケベックにおける移住のエクリチュール」(翻訳)『いすみあ』7 号、55-74 頁。
- 立花英裕 (2015) 「ロベール・シャルボノーとフランス・レジスタンス派との論争をめぐって」『ケベック研究』7 号、50-66 頁。
- 小倉和子 (2016) 「イン・チェンの小説における象徴性——『岸辺は遠く』試論」『立教大学フランス文学』45 号、75-85 頁。
- 真田桂子 (2016) 「W. ムアウッドの戯曲にみるトランスナショナルな戦禍の記憶」『阪南論集』人文・自然

- 科学編 51 巻 2 号、111-120 頁。
- 佐々木菜緒 (2016) 「現代ケベック映画における歴史的事実の表象——「静かな革命」をめぐる 3 つの物語」『カナダ文学研究』24 号、37-50 頁。
- 佐々木菜緒／仲村愛 (2016) 「現代ケベックのネイション意識変容序論：「静かな革命」と雑誌の役割」『ケベック研究』8 号、64-83 頁。
- 佐々木菜緒 (2016) 「小説」(翻訳) コーラル・アン・ハウエルズ／エヴァ＝マリー・クローラー編『ケンブリッジ版 カナダ文学史』(堤稔子／大矢タカヤス／佐藤アヤ子監訳) 彩流社、682-705 頁。
- Tachibana, Hidehiro (2016) « Dany Laferrière, masque d'un romancier », *Interculturel Francophonies*, n° 30; *Dany Laferrière : mythologie de l'écrivain, énergie du roman*, Alliance Française de Lecce, pp. 105-123.
- 竹中豊 (2016) E.D. プロジェクト「ヌーヴェル・フランスからの報告——イエズス会の『報告書』、マリー・ド・ランカルナシオン、そしてエリザベート・ベゴン——」(翻訳) コーラル・アン・ハウエルズ／エヴァ＝マリー・クローラー編『ケンブリッジ版 カナダ文学史』(堤稔子／大矢タカヤス／佐藤アヤ子監訳) 彩流社、79-97 頁。
- 一條由紀 (2017) 「イン・チェンを読む (2) ——『恩知らず』における食のイメージ——」『北海学園大学学園論集』173・174 合併号、19-37 頁。
- 小倉和子 (2017) 「アンヌ・エベールを振り返る (生誕 100 周年を機に)」(シンポジウム：ケベック社会と女性)『ケベック研究』9 号、128-130 頁。
- 真田桂子 (2017) 「ベトナム系伝語表現作家キム・チュイにみる難民の語りと脱周縁的創造力」『阪南論集』人文・自然科学編 52 巻 2 号、55-64 頁。
- 佐々木菜緒 (2017) 「アンヌ・エベール『魔宴の子供たち』における技法論——括弧による挿入語句と客観的立場」『ケベック研究』9 号、75-88 頁。
- 立花英裕 (2017) 「ガストン・ミロンとローランティド」『ケベック研究』9 号、89-102 頁。
- 小倉和子 (2018) 「アンヌ・エベールが描くケベック女性：生誕 100 周年を記念して」『ことば・文化・コミュニケーション』10 号、107-118 頁。
- Sasaki, Nao (2018) « Anne Hébert au Japon : *Les chambres de bois et Kamouraska* », *Les Cahiers Anne Hebert*, n° 15, pp. 106-115.
- Tachibana, Hidehiro (2018) « Aimé Césaire ou résistance archipélique », Buata B. Malela, Andrzej Rabsztyn et Linda Rasoamanana (dir.), *Les représentations sociales des îles dans les discours littéraires francophones*, Paris, Éditions du Cerf, pp. 303-317.
- 立花英裕 (2018) ダニー・ラフェリエール『エロシマ』(翻訳)、藤原書店。

◆ その他

- 竹中豊 (2008) 日本カナダ学会編『新版 史料が語るカナダ 1534-2007』(共編著) 有斐閣。
- 竹中豊 (2008) 「カナダ研究」はどこへ行く? : 『サイモンズ報告』30 余年後のディレンマ——グローバルな視点から見た“カナダ研究”——』『研究紀要 CARITAS』42 号、カリタス女子短期大学、11-23 頁。

- 陶山宣明 (2009) 「プロレスとカナダ人」『日本カナダ学会関東地区ニューズレター』2号、5-7頁。
- 竹中豊 (2009) 「カナダ研究はどこへ行く? —ディレンマのなかのカナダ研究—」『日加修好 80 周年記念・日本カナダ学会創設 30 周年記念 国際パネルとシンポジウム カナダ研究の軌跡: 未来への展望』日本カナダ学会、42-43 頁。
- 飯野正子／竹中豊 (2010) 『現代カナダを知るための 57 章』(編著) 明石書店。
- 竹中豊 (2010) 「討論者より (その 2)」『現代カナダの文化政策と変容する多文化社会』日本カナダ学会・青山学院大学総合文化政策学部、26-29 頁。
- Komatsu, Sachiko (2011) « Le Québec dans l'enseignement du français au Japon », *Études québécoises*, Association Coréenne d'Études Québécoises, n°.5, pp. 45-63.
- Date, Kiyonobu (2012), « La crise de l'école au Japon : problématiques structurelles et statut du religieux », *Cahiers Fernand Dumont*, n° 2, pp. 397-420.
- 飯野正子／竹中豊 (2012) 『カナダを旅する 37 章』(編著) 明石書店。
- 西川葉澄他 (2012) 「カナダ・モントリオール大学における教員研修—日本のフランス語教育における実践の可能性—」(共著) *Bulletin « Rencontres »* 関西フランス語教育研究会、26 号、58-62 頁。
- Date, Kiyonobu (2013) « La laïcité de reconnaissance s'enracine-t-elle au Japon ? », *Diversité urbaine*, vol. 13, n° 1, pp. 65-84.
- 廣松勲 (2013) 「飯野正子／竹中豊編著『カナダを旅する 37 章』明石書店、2012 年」(書評) 『ケベック研究』5 号、199-203 頁。
- 小松祐子 (2013) 「概観 教育・研究分野における交流」日本ケベック学会日ケ交流 40 周年記念事業編集委員会『遠くて近いケベック』御茶の水書房、160-167 頁。
- 池内光久／竹中豊／田中俊弘 (2014) 『カナダ検定 解いて楽しむ 101 問』彩流社。
- Komatsu, Sachiko (2014) « Recherches et enseignement : échanges fructueux » (symposium : Le Québec et sa créativité, entre le national et le transnational), *Revue japonaise des études québécoises*, no. 6, pp. 78-81.
- 陶山宣明 (2014) 「J. Keri, *Up, Up, and Away: The Kid, The Hawk, Rock, Vladi, Pedro, Le Grand Orange, Youppi!, The Crazy Business of Baseball, & the Ill-fated but Unforgettable Montreal Expos*」(書評) 『アメリカ・カナダ研究』32 号、67-71 頁。
- 上江洲律子 (2014) 「外国語としてのフランス語教育およびケベックの文化と社会に関する研修への参加報告」『総合学術研究紀要』17 卷 2 号、89-98 頁。
- 大石太郎 (2015) 「カナダの国勢調査における詳細調査票の廃止とその影響」『E-journal GEO』10 卷 1 号、18-24 頁。
- 真田桂子 (2017) 「カナダ・カウンシル—カナダ文化の振興と展開—」細川道久編著『カナダの歴史を知るための 50 章』明石書店、190-195 頁。
- 田澤卓哉 (2017) 「先住民メイティによる二つの反乱—ルイ・リエルが残した遺産—」細川道久編著『カナダの歴史を知るための 50 章』明石書店、118-123 頁。